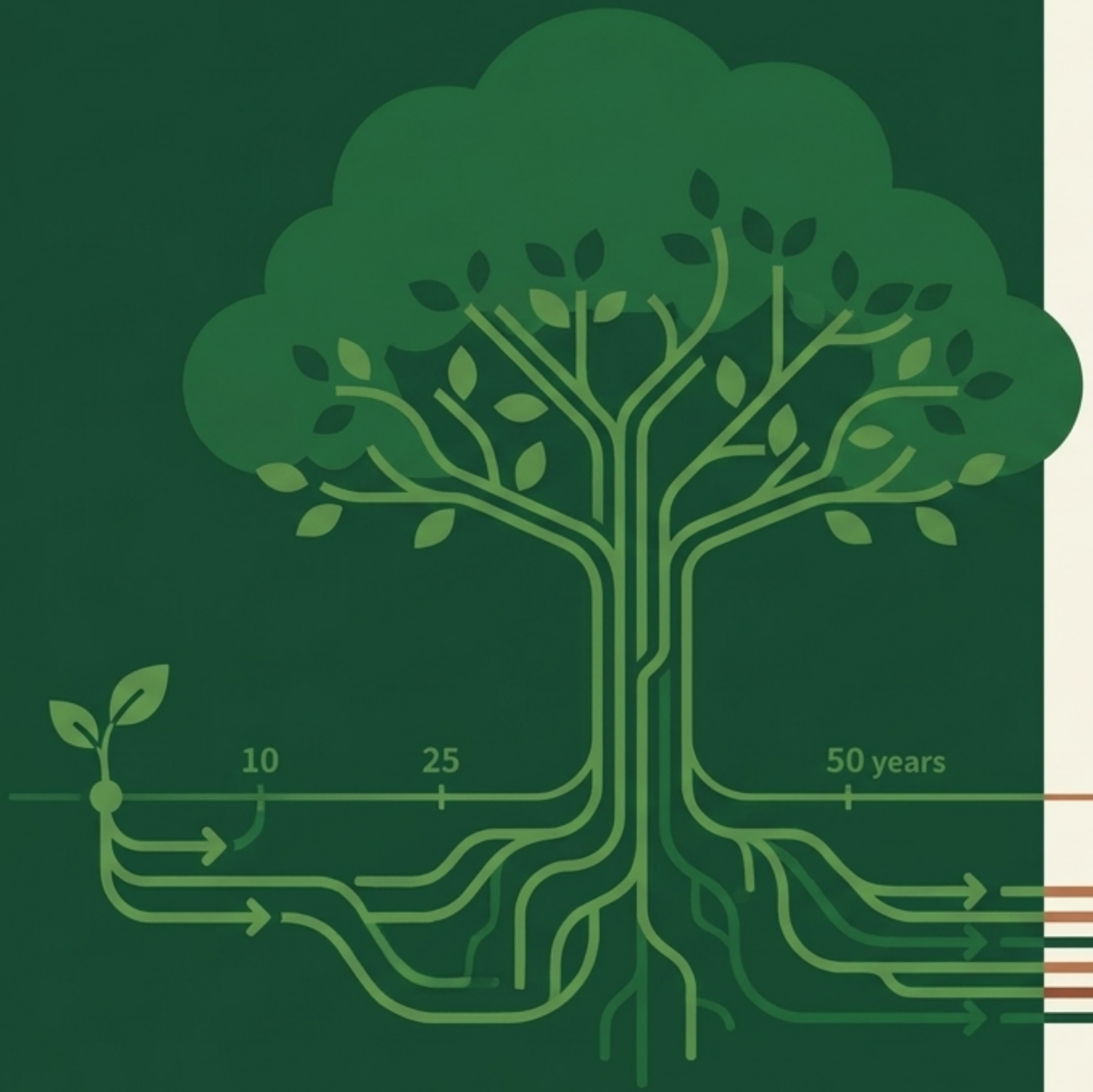
地域の森を、50年後まで誰が診るのか？

市民と一緒に考える、これからの森林づくりと「フォレスター」の役割





Gemini Notebook

目標と財源は揃いつつある。

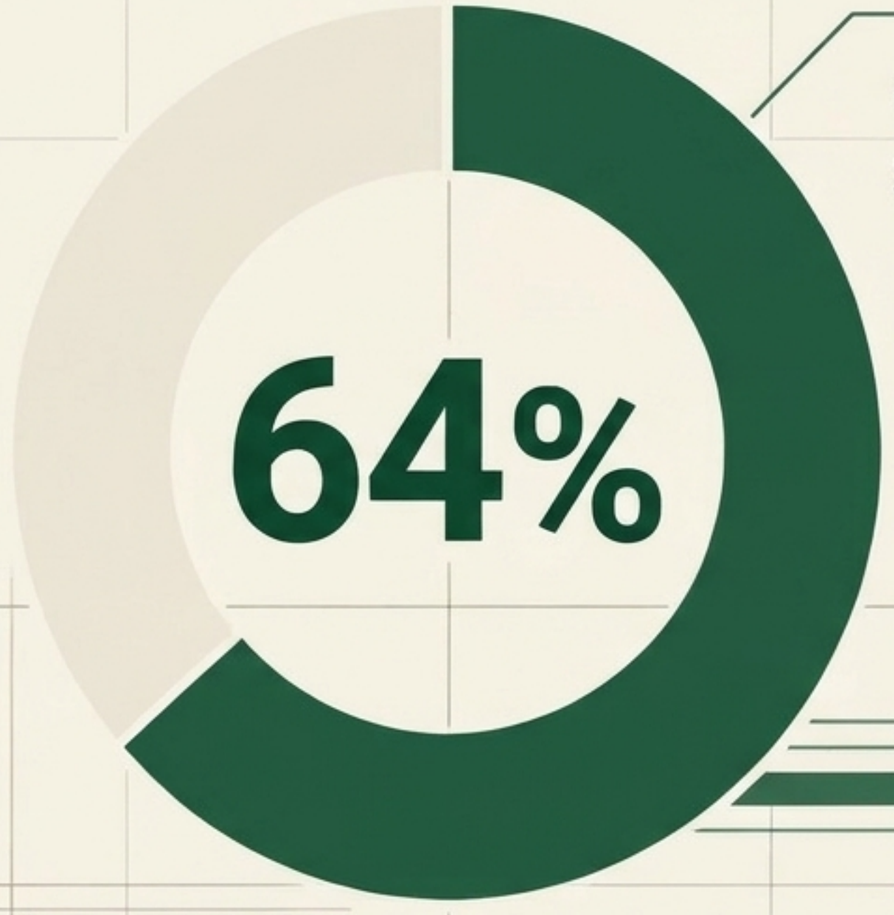


しかし、現場で「継続的」に森づくりを主導するのは誰か？

Gemini Notebook



Gemini Notebook



64%の市町村で、
林務担当職員は
「1人以下」

96%

林務担当職員の96%が
「5年以内」に異動する

**100年先の森の未来を、数年で入れ替わる
少数の担当者に委ねているのが現状です。**

Gemini Notebook

	欧州（ドイツ・スイス等）	現在の日本
役割	森林管理の専門職（国家資格等）	一般行政職のローテーション
判断の基盤	科学・法・倫理に基づく尊重	現場・行政・所有者に責任が分散
時間軸	一人が長期に地域を担当	数年で担当者が変わる

欧州では、フォレスターが「専門職」として制度の中に位置づけられている。

Gemini Notebook



診る

地域の森の現状を
正確に把握する



構想する

50年後、100年後の
姿を描く



地域の
住民・行政

森林・現場
の技術者



つなぐ

関係者、制度、事業を
結びつける

Gemini Notebook



Step 1: 森林ビジョン

地域の将来像を
合意する

Step 2: ゾーニング

将来像を場所ごとの
方針に落とし込む

Step 3: 日常行政

伐採届や補助金を
日々の判断に反映する

目の前の課題対応（モグラ叩き）から、未来からの逆算（バックキャスト）へ。

Gemini Notebook

50年後・100年後の目指す姿



「今、どの木を伐るか」ではなく、
「将来、どんな森を残したいか」からスタートする。

地域の優先順位（経済、防災、環境）
を明確にするプロセス。

今、何をすべきか決める



Gemini Notebook



木材生産

成長が見込める人工林。
安定的な木材供給と
地域経済の基盤。



災害防止

山地災害のリスクが高い箇所。
住民の安心・安全を優先。



自然環境

貴重な生態系や水源。
景観やレクリエーションの場。



Gemini Notebook



ビジョンは単なるスローガンではなく、
毎日の行政判断の「基準」となる。

Gemini Notebook



専門性を社会に定着させる4条件：【役割】【対価】【権限】【継続性】

Gemini Notebook

パラダイムシフト

【量から質へ】どれだけ伐るか



→

どの森を、何の目的で維持するか



【集中から分散へ】全国一律の制度



→

地域の自然・社会条件に応じた柔軟な判断



【所有から利用へ】単なる個人の所有物



→

地域で活かし、次世代へつなぐ共通資産



Gemini Notebook

50年後、100年後に
残したい
「私たちの森」は
どんな姿ですか？

私たちの地域では、
どの山を守り、
どの山を活かす
べきですか？

今、その長期的な
判断の責任を、
誰が担って
いますか？

地域の森の未来を、ともに考えましょう。

Gemini Notebook